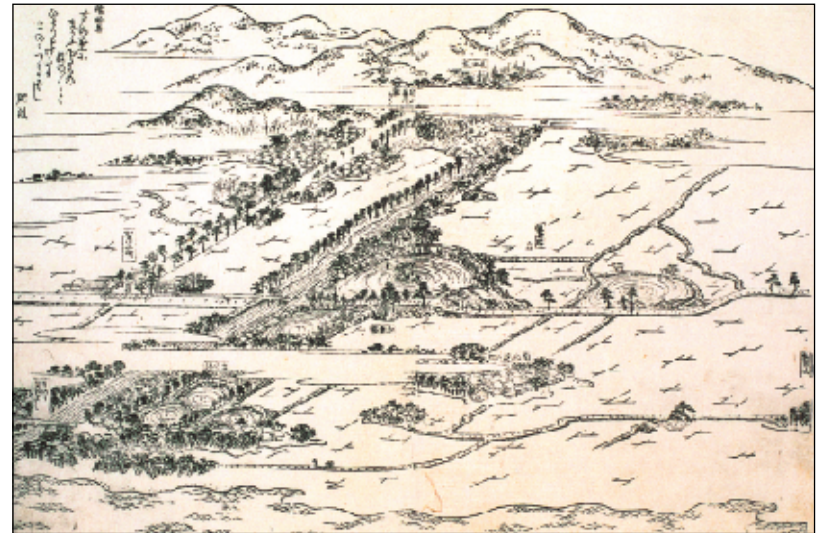


七 大路(おおみち)

新湊川のすぐ西側、長田神社への参道がのびているあたりには、中央幹線(西国街道)を挟んで南北両側に「大道通」という町名があります。この町名の由来は「西国街道」だといわれています。街道は、時代とともにその役割や姿を変化させてきました。

古代(律令時代)には、街道の重要度や利用頻度などから大路・中路・小路に分けられ、そのうち山陽道は唯一の「大路」でした。その後、中世(鎌倉、室町時代)には公定のルートとしての山陽道は存在しませんが、近世(江戸時代)に入ると、江戸幕府は参勤交代のために五街道と脇街道を整備しました。西国街道は脇街道の一つで、西国大名の参勤交代に使われました。

また、道幅も山陽道は九から十二メートルだったといわれ、西国街道と呼ばれるころには、三から六メートルぐらいだったそうです。現在の中央幹線は、道幅五十メートルの幹線道路となっています。



「摂津名所図会」奥に長田社(長田神社)がある。東西の道路が西国街道。

主な見どころ

長田神社
3-1
長田さん。祭神は事代主神、神功皇后が三韓より帰還の際に、この長田の地に事代主尊をまつたといわれる。境内地が触先を北に向けた人船形をしているのもこの言い伝えによる。明治の頃には、氏子から奉納された多くの鶏が放し飼いにされていたことから、外国人は「チキンテンブル」と呼んでいた。節分の日には追儺式。8月1日には新能が行われる。

御船山旧跡
3-2
明治35年(1902)まで、このあたりに御船山という小高い丘があったことを伝える石碑。神功皇后が船をつけたところとも、長田の神を鎮座の時、船具を埋めたところともいわれる。

監物太郎の碑
3-2
平知盛の家臣である監物太郎が知盛の嫡男知章を救おうとして討ち死にしたのをしのび、地元の人たちによって大事にまつられている。



長田神社で行われる追儺式

源平勇士の碑
3-3
一の谷の合戦のとき、父の平知盛を助けようとして明泉寺の近くで戦死した知章の碑。もともとは明泉寺の境内にあったが、孝子の墓は世の手本になるように人目に「く」ここにといついで、享保年間に西国街道筋にたてられたもの。

菅公句の梅旧跡
3-4
菅原道真が九州へ流される途中、大輪田泊に上陸したとき、えもいわれぬ梅の香に誘われて西にさまよっていた。そうすると、真野の継橋という橋の東に一本の梅の木が今を盛りと咲いていた。これをみた道真が「風寒み雪にまがへて咲花の袖にぞうつれ句ふ梅が香」とうたったといふ。これにちなんだ社と碑がある。地域文化財。

宝満寺
3-5
臨濟宗。本山は京都南禅寺。本尊の大日如来像は国指定重要文化財。大同3年(808)に弘法大師が現在の兵庫区和田山通付近に開祖し、のち治承4年(1180)平清盛が福原内裏造築のときに現在地に移したと伝えられる。

高福寺
3-5
真宗佛光寺派の末寺。正慶3年(1333)創立とされている。様々な茶室を有するとともに、すばらしい日本庭園を持ち、静かな雰囲気をもたしている。

常福寺
い-2
真言宗。本尊は延命地藏菩薩。境内には古刹ゆえの興味深さがある。寺の墓地には明治・大正の大塚相撲スター力士のお墓数基が存在する。

蓮の池跡
い-3
以前このあたりに、蓮の池という大きい池があった。1200年も前に農民が水不足に悩まされていることを知り、行基が築いたといわれている。平家物語にも登場。埋め立てた土地にある蓮池小学校に名前が残っている。

